

## 2021年度シラバス

科目名:保育内容総論	担当者:伊藤 茂美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須・選択	必須

### 授業概要と方法

- 今までの保育の学び（各領域での学び、実習体験など）を生かしながら保育内容の学びを深める。
- 我が国や諸外国の保育動向を探り、多様な保育内容が展開でき、生活・遊び・発達の連続性の理解をする。
- 小グループを編成し、グループ作業を通して、保育現場での実践力・応用力を養う。

### 授業の到達目標

- 新3法を理解し、保育内容の工夫をし、子どもに寄り添える保育者となれる学びを積み重ねる。
- 保育内容や子ども理解を深め、子どもの専門家として実践できる力を身につける。
- 家庭・地域・学校との連携を意識し、保育内容を構築できる保育のプロとして育つ。

### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

- 授業計画を確認して授業に参加する。教科書中の必要箇所を事前に読んで参加する。
- 復習として、授業と関連する内容を調査し自己ノートを作成する。
- 仲間と課題について調査した内容をまとめ報告書を作成する。

### 評価方法

授業への参加・学習態度・課題の提出60%、筆記試験40%にて評価する。

教科書	参考図書
津金美智子・新井美保子編 新時代の保育双書『子どもの主体性を育む保育内容総論』 新時代の保育双書『子どもの主体性を育む保育内容総論』 (株)みらい	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 保育所保育指針 幼保連携型教育・保育要領

### その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

- 免許・資格を取る学生は、休まず履修する。
- 連絡手段については、担当教員から伝える。
- 演習科目なので、グループワークや実践活動など、現場理解を深める内容が多い事を意識して参加する。

01 オリエンテーション・授業の進め方・子育てを巡る動向と課題<グループディスカッション>
02 子どもを取り巻く社会環境の変化と保育内容（我が国の保育構造・保育内容の国家的基準）
03 幼児教育・保育の基本（環境を通して行う保育、育みたい資質・能力、10の姿の理解等）
04 遊びと保育内容（自発的な遊びと学び、保育内容と領域の関係）<グループディスカッション>
05 子ども理解①（乳児保育に関わる保育内容）
06 子ども理解②（1歳以上3歳未満児の保育内容）
07 子ども理解③（3歳以上児の保育内容）
08 子ども理解④（家庭・地域・小学校との連携）
09 子ども理解⑤（健康及び安全、子育て支援）
10 保育の計画①（教育課程・全体的計画とカリキュラムマネジメント）
11 保育の計画②（指導計画と保育の展開）
12 保育の計画③（具体的な姿から実践へ）<グループディスカッション>
13 我が国における保育内容の変遷（戦前・戦後、現代の課題）
14 諸外国の保育内容（世界の幼児教育・保育の潮流、特色ある保育内容の調査）<グループ調査> 9
15 調査内容の発表<グループ発表>
16 筆記試験

## 2021年度シラバス

科目名:芸術の世界	担当者:基村 昌代・田端 智美・石山 英明	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須・選択	選択必須

### 授業概要と方法

【担当者の実務経験】高等学校教諭（美術）の経験を生かし、高等学校との学びの継続を行う。また芸術の教養を身につけるよう、美術館・音楽鑑賞・ICTの利用等を行い、体験的に学ぶことができるようとする。【AL】

本授業は、桜花学の「人間を知る」という群に配置された大学共通教養科目である。この群の内容は、芸術や文学、心理学、哲学を通じて人間や人間の心の諸相を把握するというものである。本授業では、音楽・美術等、芸術に関して多角的に幅広く講義し「芸術とはなにか」を追求する。芸術の細かな知識を身につけるのではなく、世界共通の文化として概略的に理解・経験することを目標とし学修する。音楽作品と美術作品を様々な形式で鑑賞し、講義と併せて授業を展開する。

### 授業の到達目標

- ①芸術とは何かを自分なりに理解できるようになること。
- ②芸術を鑑賞する力や方法について考察し、身につける。
- ③芸術を実際に体感・鑑賞し、芸術に対する理解を深める。

### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

- ・美術館・音楽会等に参加して芸術鑑賞を自らすすんで行うこと。

### 評価方法

・レポート評価(50%)、毎回の授業の終わりのリフレクション等（省察・振り返り：ミニッツペーパー等を記述）への対応（30%）、授業への参加態度(20%)を対象として総合評価を行います。

教科書 適宜プリントを配布します。	参考図書 授業内で適宜紹介します。
----------------------	----------------------

### その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

「芸術」は幅の広い概念です。普段から「芸術」に興味を持って、自らの幅を広げましょう。連絡はtabata@ohkagakuen-u.ac.jpまで。

01 ガイダンス・オリエンテーション	(基村・石山・田端)
02 総合芸術について	(基村)
03 ミュージカル「サウンドオブミュージック」が伝える様々な「愛」	(基村)
04 オペラ「カルメン」からみる女性像	(基村)
05 バレエ「ピーターと狼」の登場人物の個性とライトモチーフ	(基村)
06 モナリザはだれ？ レオナル・ド・ダビンチを中心に	(田端)
07 ピカソは本当に上手なの？ ピカソを中心に	(田端)
08 絵と会話してみよう！ 子どもの美術鑑賞を中心に	(田端)
09 音楽史に沿ってクラシック音楽を学ぼう①（バロック・古典派編）	(石山)
10 音楽史に沿ってクラシック音楽を学ぼう②（ロマン派・近現代編）	(石山)
11 音楽を楽しむ人々と、音楽にこだわる芸術家	(石山)
12 音楽会を体験してみよう（ゲスト講師と石山によるライヴ&トーク）	(石山)
13 美術館に行ってみよう	(田端)
14 美術館に行ってみよう	(田端)
15 まとめ・レポート提出	(基村・石山・田端)
16 なし	

## 2021年度シラバス

科目名:子ども家庭支援論	担当者:太田 早津美	開講学科等 授業形態	保育学部 保育学科 講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
受講者制限:		配当学年	2
		単位数	2
		必須・選択	必須

### 授業概要と方法

【担当者の実務経験】保育士・保育園長

この授業では、現場経験を基にした具体的な事例検討で、子育て家庭の支援の在り方を学び理解を深め実践力を高めていく。子育て家庭を取り巻く様々な問題や課題を抱えている子育て家庭の現状把握と支援策を学びながら、保育所や地域の子育て家庭のニーズや社会的課題を踏まえた支援ができるよう理解を深めていく。

### 授業の到達目標

子育て家庭を取り巻く現状を把握し、子ども家庭支援の意義と保育者の役割について理解する。子育て家庭の支援体制について理解する。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と保育所や地域との連携について理解する。

### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

保育に関連する専門職として必要な知識について自らの学びを確認しながら、授業内容を幅広い知識をもって学ぶようになる。予習復習をして、教科書に記された大切な用語等を理解し覚えておく事。居住地の子育て家庭の状況や支援対策を知っておくこと。子育て支援センター等に出向き、親子のかかわり方を観察したり、保護者の子育て観や子育ての悩みを聞き、子育て支援についての学びを深めること。

### 評価方法

筆記試験（80%）、授業への参加態度・レポート・提出物（20%）

教科書 学ぶ・わかる・みえる 保育と子ども家庭支援論 第2版（編 ）石動瑞代（みらい）	参考図書 <29年告示>保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領
その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 新聞や報道による子育て家庭に関する記事に関心を持ち、子育て家庭の現状をより理解するよう努めましょう。自身のワークライフバランスを考えた時にどのような支援が必要か考えてみましょう。 研究室7402	

- 01 授業ガイダンス ・ 子ども家庭支援とは
- 02 子ども家庭支援の意義と役割
- 03 子育て家庭を取り巻く地域社会の変容と子ども家庭支援の必要性
- 04 保育士等が行う子ども家庭支援
- 05 保育の特性と保育士の専門性を生かした子ども家庭支援
- 06 保育所・幼稚園・幼保連携型認定子ども園における子育て家庭への支援
- 07 子育て家庭の支援体制
- 08 子育て支援事業
- 09 多様な子育て家庭の支援と関係機関との連携
- 10 地域の子育て家庭への支援状況
- 11 要保護児童及びその家族に対する支援
- 12 保育現場での子ども家庭支援の現状と課題
- 13 子ども家庭支援を行う保育士の基本姿勢
- 14 子ども家庭支援の課題とまとめ ① 事例研究と支援方法の考え方
- 15 子ども家庭支援の課題とまとめ ② 今後の課題と保育者としての支援の在り方
- 16 定期試験

## 2021年度シラバス

科目名:乳児保育Ⅰ	担当者:太田 早津美	開講学科等 保育学部 保育学科
免許・資格:保育士資格		授業形態 講義
受講者制限:		開講時期 後期
		配当学年 2
		単位数 2
		必須・選択 必須

### 授業概要と方法

【担当者の実務経験】 保育士・保育園長

この授業では、保育現場での経験を活かし、3歳未満児の保育について、事例を示しながら実践力を高める学びができるようになる。3歳未満児の子どもの気持ちを受け止め理解するためには保育者としての専門性と感性が必要となる。乳児保育の意義、理念、内容、方法、子育てに関する専門的知識を講義やグループ学習、事例検討のアクティブラーニングで学ぶ。手遊びや歌遊びなど乳児保育の実践に役立つ技術を演習で習得できるようとする。

### 授業の到達目標

乳児保育の意義や現状を踏まえ、乳児保育に必要な知識や技術を習得し、乳児の理解を深め、乳児保育のために必要な実践力を身につける。

3歳未満児の発育、発達を踏まえた保育の内容と生活の流れ、保育所、乳児院など多様な保育の場における乳児保育の現状と課題を理解する。

### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

乳幼児の発達の理解を深めるために乳幼児との接触の機会を積極的に作る。乳児の生活に必要な環境、用具やおもちゃについて知る。

### 評価方法

筆記試験（80%）、授業への参加態度・レポート・提出物（20%）

教科書 理論と実践に学ぶ「乳児保育」太田早津美（編）青踏社 平成29年告示保育所保育指針（フレーベル）	参考図書 適宜授業時に紹介
その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 授業の空き時間や長期休暇等を利用し、乳幼児と触れ合う機会を多く作り乳児の理解に努める。乳児保育に必要な手遊び・歌あそびを覚え、手作りおもちゃを作るなど、保育実践に役立つ技術の習得や教材研究を積極的に進める。 研究室 7402	

01 授業概要および評価方法等の説明 乳児保育の意義

02 最近の子育て事情と課題

03 乳児保育の現状

04 保育所保育指針を基にした乳児保育のねらいと内容

05 乳幼児理解と保育の視点

06 乳幼児の心身の発達

07 0歳児クラスの子どもの発達と保育

08 1歳児クラスの子どもの発達と保育

09 2歳児クラスの子どもの発達と保育

10 言葉の発達とコミュニケーション

11 実践例から見る乳児の理解

12 実践例から見る保育の展開

13 実践例から見る援助の実際

14 乳児保育における連携・協働

15 まとめ

16 定期試験

## 2021年度シラバス

科目名:保育者論	担当者:上村 晶	開講学科等	保育学部 保育学科
免許・資格:保育士資格		授業形態	講義
受講者制限:特になし		開講時期	前期
		配当学年	1
		単位数	2
		必須・選択	必須

### 授業概要と方法

#### 【担当者の実務経験】幼稚園教諭

本科目は、現代社会における保育者の在り方について理解を深める。特に、幼稚園教諭の立場から、実践現場に根差した保育者の在り方を深く考えることを基軸に、幼稚園教諭・保育教諭・保育士など保育者の役割が変化しつつあることを踏まえながら、保育者としての制度的位置づけ、職務内容、資質、専門性などを理解するようする。【AL】

#### 授業の到達目標

- ①日本における学校教育や教職の社会的意義や今日的課題について理解し、幼稚園教諭・保育教諭・保育士としての役割や資質能力・多様な職務について理解する。
- ②教師・保育者の全体的な職務内容を把握すると同時に、教師・保育者としての資質や専門性・義務や職業倫理について理解する。
- ③地域・家庭・社会的ニーズを踏まえた上で、多様な人材や専門家との協働・連携を通じて組織的に諸課題に対応する必要性について理解する。
- ④保育者としての資質や専門性を理解する中で、現代に求められる保育者像を明確化する。

#### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

毎回の授業で、課題(テキスト予習及び次回のテーマ)を発表します。次回の授業までに、事前に教科書を熟読するなどして、テーマについて自身の考えを明確にして授業に臨んでください。また、理想の保育者像に関する課題は、授業での学びを生かしながら作成し、発表・提出に備えてください。

#### 評価方法

理想の保育者像シート(25%)・最終筆記試験(45%)・授業への取組(各回FB:30%)で総合評価を行う。

教科書	参考図書
「子どもと共に育ち合うエピソード保育者論」井上孝之編 みらい(2020年改訂版)	平成29年告示版 幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書

#### その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

1年生の段階で「どのような保育者を目指したいか」を描くことは、今後の皆さんの道標となります。夢や理想を描きつつ、保育現場で必要な力量とは何かを考えながら、常に課題意識を持ちながら授業に臨んでください。また、模擬授業では、聞き手の学びなどに留意しながら、授業展開をしてください(OH等は初回に開示します)。

01	オリエンテーション、ナショナルカリキュラムにみる保育者の役割
02	保育者として働く目的と意義 一保育者になるということ一
03	現代社会と保育者 一社会の変化と保育者に求められる今日的課題一
04	保育者の制度的な位置づけと職業倫理 一責務と倫理一
05	保育者の職務内容(1) 一教育課程及び全体的な計画に基づくカリキュラムデザインと評価一
06	保育者の職務内容(2) 一家庭や地域との連携を重視した多様な職務一
07	保育者の職務内容(3) 一個々のニーズに応じた教育的支援一
08	保育環境の意義と保育者の役割 一保育環境をデザインする意味一
09	子どもの主体的な学びを支える保育者の役割 一遊びの展開や保育の充実を支える意味一
10	保護者の専門職的成长 一キャリア形成の意義と研修一
11	保育者の協働と連携 一チーム学校(園)と組織的な連携一
12	海外の幼児教育・保育の現状 一海外の保育実情と多文化共生一
13	保育者に求められる資質や専門性(1) 一資質向上を目指した取組一
14	保育者に求められる資質や専門性(2) 一組織とリーダーシップ一
15	理想の保育者像プレゼンテーションとまとめ
16	定期試験

## 2021年度シラバス

科目名:教育実習Ⅲ（幼稚園）	担当者:五十嵐 瞳美・上村晶・小原倫子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:教育実習指導Ⅱの授業欠席が3回未満の学生・実習契約書の内容を遵守できる学生		単位数	3
		必須・選択	選択

### 授業概要と方法

#### 【担当者の実務経験】幼稚園教諭

本科目は、幼稚園教育実習における実践的な学びを体験・学修する。特に、元幼稚園教諭の立場から、実習現場が実習生に求める実践的指導力などを事前に具体的に提示したり、訪問指導時等で学生と共有したりする中で、幼稚園教育実習における学びを学生が更に深めることができるようとする。【AL】

教育実習Ⅰの学びや体験を活かして、自ら課題を持ちながら幼児と関わりを深める中で、幼稚園教育の実際を体験的に学ぶ。また、教師としての職業倫理の理解をさらに深め、応用的・発展的な知識・技術・態度について体験的に学習すると同時に、教師としての実践的指導力の基礎を培う。

同様に、修得した理論を自ら応用しながら実践することを通して、教師としての専門性や資質を理解し、自らの保育観・教育観を持つようになる。

### 授業の到達目標

①幼稚園の役割や機能や、施設・設備・環境構成等を踏まえた幼稚園教育の在り方について、実際に即して学ぶ、②発達に応じた幼児の実際の姿を通して幼児理解を深める、③観察、参加、指導実習（部分・総合）等を通して、指導計画の立案や実践の展開・評価などの幼稚園教育の実際を体験的に学ぶ、④幼稚園教諭の職務内容について実際に即して学ぶ、⑤地域の幼児教育センターとしての幼稚園の役割について、実際に即して学ぶことを通して、幼稚園と家庭・地域等との関係についての理解を深める、⑥幼小接続の在り方や、特別な支援を必要とする幼児への指導の実際、教育課程に係る教育時間終了後などに行う教育活動（預かり保育）の実際について、理解を深める、⑦幼児の教育・保育に関する自らの問題意識や課題意識を実際に即して検証し深める。

### 授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）

①実習の実施に先立って、教育実習指導Ⅲで学んだことをよく確認すること。②事前訪問時に実習園からいただいた指導をよく確認して、実習の事前準備をすること。

【留意事項】実習開始までに以下の科目を履修または単位修得していること。

◆領域に関する専門的事項：幼児と健康・幼児と人間関係・幼児と環境・幼児と言葉・幼児と表現から3単位以上

◆保育内容の指導法及び教育の基礎的理解に関する科目等：保育者論・保育内容総論・教育原理・子ども理解の理論と方法・教育の方法・教育心理学・保育内容指導法（人間関係）・保育内容指導法（環境）・保育内容指導法（言葉）・保育内容指導法（表現）

◆教育実習関連科目：教育実習指導Ⅰ・教育実習Ⅰ

### 評価方法

実習園からの評価60%、実習日誌20%、実習事後レポート10%、その他（実習への意欲・実習状況など）10%を総合して評価する。

教科書 教育実習Ⅲの手引き・実習ハンドブック	参考図書 幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成29年告示版）
---------------------------	--

### その他（学生へのアドバイス、連絡手段）

①本実習を行なうに当たり、原則、当該年度の「教育実習指導Ⅲ」を履修することが条件となります（未履修者は本実習に参加することはできません）。②実習期間中の遅刻・早退・欠席等については、事前にその旨を申し出、許可を受けること。特に欠席の場合は大学・実習園へ必ず電話連絡すること（大学の受付は教務課実習担当：0562-97-5503）。③欠席・遅刻・早退等の場合は、必ず延長実習を行うこと。

01 実習実施期間：2021年11月22日（月）～12月10日（金）3週間

事前訪問期間：10月11日（月）～10月29日（金）

巡回教員研究室訪問期間：11月01日（月）～11月11日（木）

【実習概要】幼稚園における120時間（計3週間）の実習を通して、観察・参加・指導実習（部分・総合）を体験する。①観察・参加を通しては、幼稚園での幼児の姿、幼稚園教諭の教育や園務の実際、家庭や地域との関係、施設・設備・環境構成等の幼稚園教育の在り方について、常に自己課題を持ちながら、体験を通じて理解する。また、幼小接続の在り方、特別な配慮を必要とする幼児への指導の実際、教育課程に係る教育時間終了後などに行なう教育活動（預かり保育）の実際等、幼稚園を取り巻く現実的課題に目を向け、具体的な教育実践の在り方や教師の配慮事項について、理解を深める。②参加・指導実習（部分・総合）を通しては、幼児の発達の姿、教育の実際、幼稚園教諭の職務の実際、幼稚園の役割や機能、家庭や地域との関係等を踏まえ、幼児への援助・指導計画の立案・教育実践の展開・実践の評価など、自ら意識的に体験をして実践的な理解を深めることを課題とする。同時に、研究保育などを通じて子と集団の育ちに配慮した教育実践を開拓する中で、指導教諭からの意見を参考にして改善していく経験を踏まえ、カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方について理解する。③将来の幼稚園教諭としての専門性を自覚し、自らの幼稚園教諭職に対する自覚を高めると同時に、保育観・教育観の涵養を図る。

02

03

04

05

06

07

08

09

10

11

12

13

## 2021年度シラバス

科目名:教育実習指導III（幼稚園）	担当者:五十嵐 瞳美・上村晶・小原倫子	開講学科等 授業形態	保育学部 保育学科 演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期・後期
受講者制限:当該年度の教育実習IIIの履修を希望していること・幼稚園教諭一種免許状の取得を希望していること・教育実習Iを履修済みであること		配当学年	3
		単位数	2
		必須・選択	選択

### 授業概要と方法

#### 【担当者の実務経験】幼稚園教諭

本科目は、元幼稚園教諭としての経験を活かしながら、幼稚園教育実習における実習生の学びの深め方について、具体的に検討する。また、実習現場で求められる指導計画や実践的指導力などを具体的に検討・共有することを通じて、幼稚園教育実習に必要な知識・技能などを体験的に学ぶことができるようとする。【AL】

教育実習IIIのための事前事後指導としての本授業では、実習のあり方、指導案の作成、実習への心構えを学び、実習後の振り返り、自己課題を明らかにし、今後の課題に活かしていく。

### 授業の到達目標

①幼稚園における教育実習の意義や目標を理解する、②実習の心構えを学び、実践に必要な準備に自ら取り組む、③観察実習、参加実習、責任実習の内容について理解し、準備・実践・振り返りに意欲的に取り組む、④実習終了後、実習への取り組みを振り返り、自己課題を把握し、今後の学習や就職に活かしていく。

### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

1・2年の実習を踏まえて、本実習ではさらに何を学びたいのかの自己課題を明確にもてるよう、自ら進んで授業外学修をすること。毎回の予習課題に取り組み、事前学修を深めておくこと。

### 評価方法

予習復習課題（3×8回=24%）・各回のFB（5×8回=40%）、指導案発表（20%）、自己評価票（10%）、授業への意欲（6%）を総合的に評価する。

### 教科書

教育実習IIIの手引き・実習ハンドブック

### 参考図書

幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書（平成29年告示版）

### その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

・公欠以外の理由で事前指導を3回以上欠席した学生や、正当な理由なく無断で授業を欠席・遅刻した学生は、実習を実施することができなくなります。授業を欠席する場合は、その前後に必ず、教務課または授業担当教員に直接連絡をしてください（要課題）。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

・下記8回の授業の他、教育実習IIIを履修する学生は、①実習園発表や実習倫理に関するガイダンス（誓約書・個人票作成）、②事前訪問ガイダンス、③実習評価票に基づく個別面談などが、授業外のガイダンスとして実施しますので、必ず忘れずに参加してください。

01 教育実習IIIの課題と幼稚園における教育の理解 ー幼稚園教育の実際ー

02 教育実習における指導計画の立て方

03 学年別の指導案の作成と発表（1）年少児

04 学年別の指導案の作成と発表（2）年中児

05 学年別の指導案の作成と発表（3）年長児

06 教育実習に向けての幼児理解と記録 一日誌の書き方ー

07 教育実習直前指導（教師としての心構えや教職倫理）

08 教育実習事後指導 ー学びの振り返りと自己課題の明確化ー

09

10

11

12

13

14

15

16

17 教育実習事後指導（2）自己課題の明確化

## 2021年度シラバス

科目名:国語科教育法	担当者:森川 拓也	開講学科等 保育学部 保育学科
免許・資格:小学校教諭1種免許状		授業形態 講義
		開講時期 後期
受講者制限:		配当学年 2
		単位数 2
		必須・選択 選択

### 授業概要と方法

#### 【担当者の実務経験】小学校教諭

この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、小学校で国語の授業を行うための具体的指導方法を学ぶ機会を具体的に展開していく。また、小学校における教育活動の心構えや子どもへの支援のあり方について実践的に学べるようにする。

小学校における国語科教育の目標・内容のすべてにわたっての基礎を学んだ上で、国語科の授業を担当するための知識・技能・教材研究の方法・学習指導の方法を具体的に学び、習得します。グループ・ワーク、ディスカッション・発表などを多く行います。

### 授業の到達目標

小学校国語科の目標・構成・評価に関わる基礎的な内容を理解し、国語の具体的授業像をもつ。教材研究・指導計画立案等の方法を理解し、授業実践力を高める。国語の授業づくりへの意欲をもつ。

### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

教材を読んで課題を考えておいたり、参考資料を調べたりすること、またそれぞれで教材研究を行うことなどがあります。さらに授業案の作成も課題になります。

### 評価方法

授業に参加する姿勢・活動 (20%) レポート・課題・提出物・発表 (40%) 筆記試験 (40%) 以上を総合して評価します。

教科書 小学校学習指導要領解説 国語編	参考図書 適宜紹介します。
------------------------	------------------

### その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

国語辞典が必要です。(電子辞書も可) 各回に配付する資料は失くさないようにしてください。連絡先・手段は授業時に伝えます。

01 オリエンテーション (現在の現場で求められる国語の力についての理解)
02 国語科教育の目標と内容 (新学習指導要領の理解) の授業への具体化についての理解
03 国語の授業と子どもの学習能力の育成についての理解
04 国語の授業の具体例から学ぶ (授業映像の分析・検討)
05 教材研究から授業づくりへ① 文学教材をどう読み、どう指導するか (教材研究)
06 教材研究から授業づくりへ② 文学教材をどう読み、どう指導するか (発問検討)
07 教材研究から授業づくりへ③ 文学教材をどう読み、どう指導するか (指導案作成)
08 模擬授業演習① 実践と振り返り
09 教材研究から授業づくりへ④ 説明文教材をどう読み、どう指導するか (教材研究)
10 教材研究から授業づくりへ⑤ 説明文教材をどう読み、どう指導するか (指導案作成)
11 教材研究から授業づくりへ⑥ 「話すこと・聞くこと」をどう指導するか
12 教材研究から授業づくりへ⑦ 「書くこと」「言語文化」をどう指導するか
13 教材研究から授業づくりへ⑧ 発問検討・指導案作成
14 模擬授業演習② 実践と振り返り
15 まとめ
16 筆記試験

## 2021年度シラバス

科目名:国語	担当者:森川 拓也	開講学科等 保育学部 保育学科
免許・資格:小学校教諭1種免許状		授業形態 講義
		開講時期 前期
受講者制限:		配当学年 2
		単位数 1
		必須・選択 選択

### 授業概要と方法

#### 【担当者の実務経験】小学校教諭

この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、教育の実践者として必要な基本的な国語力と言語表現力を養う授業を開発する。国語科は「言葉の学習」としての教科であるとの理解を深め、教材研究を中心に、国語科の授業づくりの基礎を学ぶ。講義形態だが、グループワーク・実習・発表などの活動を積極的に取り入れる。

### 授業の到達目標

国語科教育の本質と重要性を理解し、言葉を使って「話す」「聞く」「書く」「考える」という基本的な力と指導する基礎を身につける。国語科の授業づくりへの意欲をもつ。

### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

教材を読んで課題を考えておいたり、参考資料を調べたりすること、またそれぞれで教材研究を行うことなどがあります。

### 評価方法

授業に参加する姿勢・活動 (20%) レポート・課題・提出物・発表 (40%) 筆記試験 (40%) 以上を総合して評価します。

### 教科書

小学校学習指導要領解説 国語編

### 参考図書

適宜紹介します。

### その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

国語辞典が必要です。(電子辞書も可) 各回に配付する資料は失くさないようにしてください。連絡先・手段は授業時に伝えます。

01 オリエンテーション 国語科は「言葉の学習である」ことの理解

02 国語の教材研究の重要性とその方法①(「言葉を学ぶ学習」の観点から)

03 国語の教材研究の重要性とその方法②(「主体的・対話的な学習」の観点から)

04 国語の教材研究の重要性とその方法③(「思考力・表現力を育む学習」の観点から)

05 伝統的な言語文化と日本語文法の基礎と表現についての理解

06 言葉を使って「書く」ということの理解と実習

07 言葉とイメージ(言葉による表現活動)の理解と実習

08 保幼小接続の観点から国語科を考える まとめ

09 筆記試験

10

11

12

13

14

15

16

## 2021年度シラバス

科目名:幼児と言葉	担当者:森川 拓也	開講学科等 保育学部 保育学科
		授業形態 演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期 前期
		配当学年 1
受講者制限:		単位数 1
		必須・選択 選択

### 授業概要と方法

#### 【担当者の実務経験】小学校教諭

この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、具体的な作業・活動を通して、領域「言葉」を指導する実践力の基となる基礎知識を身につける授業を展開する。その上で、子どもが「言葉」を獲得していくことの重要性と保育者の支援を学ぶ機会とする。

### 授業の到達目標

生活する手段としての「言葉」の意義と働きについて理解した上で、幼児の言葉を育み、言葉の豊かな使い手となるように指導するための教材理解や知識を身につける。

### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

配付資料のふりかえり、事前準備としての資料や指定図書の研究、日常の子どもの言葉の聞き取り・分析等の課題があります。

### 評価方法

各回のふりかえり (20%) 授業・演習課題に対する取り組み姿勢 (20%) 演習課題の内容 (20%) 定期試験 (40%) 以上を総合して評価します

### 教科書

『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

### 参考図書

必要に応じて提示します

### その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

各回に配付する資料は失くさないようにしてください。 連絡先・手段は授業時に伝えます。

01 なぜ「言葉」を学ぶのか

02 乳幼児期の言葉の発達

03 幼児にとって「言葉」とは何か

04 幼児の言葉から考える

05 人とつながるための言葉

06 子どもの言葉を育てる保育者・保護者の役割

07 子どもの言葉を育てる文化的環境と文化財

08 言葉をめぐるいろいろな問題

09 定期試験

10

11

12

13

14

15

16

## 2021年度シラバス

科目名:生活	担当者:松永 康史	開講学科等 保育学部 保育学科
免許・資格:小学校教諭1種免許状		授業形態 講義
		開講時期 前期
受講者制限:		配当学年 2
		単位数 1
		必須・選択 必須

### 授業概要と方法

#### 【担当者の実務経験】小学校教諭

本授業では、元小学校教諭の経験を踏まえ、教材研究や授業実践の分析について具体的な検討を行う。また、指導方法の工夫などを学ぶことができるようする。

生活科の目標や内容を確認しながら、子どもの立場になって活動や体験（グループワークを含む）をし【AL】、生活科の学びについてイメージをもつ。気付きを大切にし、気付きの交流を通して、生活科の在り方を考える。

### 授業の到達目標

活動や体験を通して生活科の学習イメージを膨らませる。気付きの交流を通して、生活科の基礎的な理解と実践力を習得する。

### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

事前学習として示したことを行っておくこと。事後は、授業で紹介した活動を、授業だけにとどめず、継続して自分の学びにすることを期待します。

### 評価方法

定期試験60%、授業への参加態度40%

### 教科書

小学校学習指導要領解説 生活編

### 参考図書

小学校学習指導要領、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書

### その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

授業時の持ち物を確実に準備すること。天候等により予定が変更になることもあると思いますが、臨機応変に対応してください。オフィスアワー木曜日休み

01 幼小接続としての生活科

02 学校探検の準備と計画

03 学校探検

04 学校探検の発表

05 身近なものを使ったおもちゃ遊びの計画と準備

06 身近なものを使ったおもちゃの製作

07 身近なものを使ったおもちゃ遊びと改良

08 生活科の課題

09

10

11

12

13

14

15

16

## 2021年度シラバス

科目名:道徳教育の指導法	担当者:松永 康史	開講学科等 保育学部 保育学科
免許・資格:小学校教諭1種免許状	授業形態 講義	
受講者制限:	開講時期 前期	
	配当学年 2	
	単位数 2	
	必須・選択 必須	

### 授業概要と方法

#### 【担当者の実務経験】小学校教諭

本授業では、元小学校教諭の経験を踏まえ、教材研究や授業実践の分析について具体的な検討を行う。また、指導方法の工夫などを学ぶことができるようする。

本授業では、「学習指導要領」等を理解し、学校現場において行う道徳科の目標、教育内容、指導法について理解を深める。また、児童の道徳性の発達についての知識をもち、道徳科の授業づくりを検討する。授業づくりにおいては、授業実践例の検討や教材研究を行う。その際、「考え、議論する道徳」を想定した授業づくりの力を養う。授業の最初に道徳の内容項目に関する動画を見て、グループディスカッションを行う【AL】。

### 授業の到達目標

道徳の意義や原理を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と道徳科の目標、内容、指導計画等を理解し、児童の道徳性の発達をふまえた教材研究や授業実践の分析等を通して、授業づくりの力を身につける。

### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

道徳資料を読むこと、指導案の作成など課題を指示することもあります。

### 評価方法

定期試験60%、授業への参加態度40%

教科書 文部科学省『小学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』	参考図書 『小学校学習指導要領』、その他適宜連絡します
その他(学生へのアドバイス、連絡手段) オフィスアワー木曜日休み	

01 道徳の本質と「考え、議論する」道徳

02 学習指導要領の理解①：学校の教育活動全体における道徳教育

03 学習指導要領の理解②：道徳科

04 日本における道徳教育の歴史

05 子どもの発達と道徳性：コーラルバーグ等の理論

06 道徳教育に関する授業理論

07 授業実践の事例検討①：低学年

08 授業実践の事例検討②：中学年

09 授業実践の事例検討③：高学年

10 学習指導案の構成と内容、作成手順

11 資料収集と資料分析

12 学習指導の多様な展開①：多様な教材を生かした指導

13 学習指導の多様な展開②：指導方法の工夫

14 道徳教育、道徳科における評価

15 これから道徳教育に求められる実践的指導力と課題

16

## 2021年度シラバス

科目名:特別支援教育論	担当者:柏倉 秀克	開講学科等 保育学部 保育学科
免許・資格:特別支援学校教諭		授業形態 講義
受講者制限:		開講時期 後期
		配当学年 2
		単位数 2
		必須・選択 必須

### 授業概要と方法

#### 【担当者の実務経験】特別支援学校教諭

この授業科目では、元特別支援学校教諭としての経験を踏まえ、障害等により特別の支援を必要とする幼児・児童・生徒に対する支援方法について具体的な検討を行う。また、特別支援教育を実施するための支援計画・指導計画の作成・活用について体験的に学ぶことができるようにする。

特別支援教育について多方面から学びを深めるとともに、特別支援教育の理念と歴史、教育課程と指導法、特色ある自立活動、進路指導の概要について理解を深める。

### 授業の到達目標

①特別な教育的ニーズのある子どもたちに対する理解を深める。②特別支援学校、特別支援学級、通常学級の役割について理解を深める。③特別支援教育の教育内容の概要について理解を深める。④特別支援教育における自立活動、地域連携、キャリア教育等について理解を深める。

### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

準備学修としては特別支援教育に関する基本文献を各自が予習すること。事後学修としてはボランティア体験など障害児に対し実践的にかかわる体験ができるだけ多く持つことが求められる。

### 評価方法

出席態度(10%)、レポート・小テスト(20%)、定期試験(70%)により総合的に評価する。

教科書 授業中にレジュメを配布する。	参考図書 授業中に紹介する。
-----------------------	-------------------

### その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

受講するにあたって特別支援教育に関する「問い合わせ」や「疑問」を持ち寄っていただき、その答えや解決への道筋を皆さんとともに授業の中で追及していきたい。連絡先:kashiwakura@ohkagakuen-u.ac.jp

01 特別支援教育の理念
02 特殊教育から特別支援教育へ
03 特別支援教育の場
04 教育課程の概要
05 特別支援教育（視覚障害教育）の対象と指導方法の概要
06 特別支援教育（聴覚障害教育）の対象と指導方法の概要
07 特別支援教育（知的障害教育）の対象と指導方法の概要
08 特別支援教育（肢体障害教育）の対象と指導方法の概要
09 特別支援教育（病弱虚弱教育）の対象と指導方法の概要
10 特別支援教育における自立活動
11 特別支援教育におけるキャリア教育
12 地域における社会資源との連携
13 特別支援教育の専門性
14 障害者権利条約と特別支援教育
15 特別支援教育論のまとめ
16

## 2021年度シラバス

科目名:障害児保育	担当者:勝浦 真仁・小柳津 和博・柏倉 秀克	開講学科等	保育学部 保育学科
免許・資格:保育士資格		授業形態	講義
受講者制限:		開講時期	後期
		配当学年	3
		単位数	2
		必須・選択	選択

### 授業概要と方法

#### 【担当者の実務経験】特別支援学校教諭

この授業科目では、元特別支援学校教諭としての経験を踏まえ、障害等により特別の支援を必要とする子どもを保育する保育所、施設等における指導・支援方法について具体的な検討を行う。また、障害児保育を実施するための支援計画・指導計画の作成・活用について体験的に学ぶことができるようとする。【A L】

1. 障害児保育を支える理念、2. 障害児等の理解と保育における発達の援助、3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際、4. 家庭及び自治体・関係機関との連携、5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題、これらについてDVD等の映像や事例を活用しながら学ぶ。

### 授業の到達目標

- ① 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。
- ② 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。
- ③ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。
- ④ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。
- ⑤ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。

### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

教科書を読み、授業内容の発表を学生が行う。オリエンテーションでグループ分けを行う。事例検討についてもグループ分けし、支援の方法を学び合う。障がいのある子どもに係わるテレビや新聞・ネットの記事などに普段から着目するようにしていくこと。

### 評価方法

3名の教員の評価点を合計して、成績評価を行う。授業内容発表(5%)、事例検討会発表(10%)、小テスト・レポート(75%)、授業への参加態度(10%)により総合的に評価する。

教科書	参考図書
特別の支援を必要とする子どもの理解ー共に育つ保育を目指してー(勝浦真仁編著、ナカニシヤ出版)	保育所保育指針及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説

### その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

保育者を目指す学生にとって、障がいのある子どもたちとの出会いは貴重な機会であり、自身の保育観・障がい観を見つめ直す機会となる。2年生での学びやこれまでの実習での体験を基に、さらに理解を深めてほしい。

連絡先 : kashiwakura@ohkagakuen-u.ac.jp

katuura@ohkagakuen-u.ac.jp

oyaizu@ohkagakuen-u.ac.jp

01 オリエンテーション
02 <柏倉担当> 障害児保育の歴史的変遷—統合保育まで—
03 障害児保育の現状ーインクルージョンに向けてー
04 特別支援教育からインクルーシブ教育へ—障害者権利条約と合理的配慮—
05 関係者との連携（地域専門機関、小学校）
06 <勝浦担当> 障害児保育の対象：2年時の復習と配慮を必要とする子ども（気になる子ども）
07 NPO・学童保育での障害児保育
08 「共に育つ」保育を目指して
09 乳幼児健康診査、就学時健康診断
10 <小柳津担当> 子ども同士の関わり合い・育ち合い
11 個々の発達を促す生活と遊びの環境
12 保護者・家族との連携
13 個別の支援計画・指導計画の作成と活用、ケース会議
14 事例検討会の準備
15 事例検討会（発表）
16 なし

## 2021年度シラバス

科目名:幼児造形A	担当者:田端 智美	開講学科等 保育学部 国際教養こども学科
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格	授業形態 演習	
	開講時期 前期	
	配当学年 1	
受講者制限:	単位数 1	
	必須・選択 選択	

### 授業概要と方法

【担当者の実務経験】小学校非常勤講師

この授業科目では、元小学校非常勤講師（图画工作専科）の経験を踏まえ、幼稚園・保育園・小学校の連携を含めた指導・支援方法について具体的な検討を行う。また発達の過程を含めた支援計画・指導計画の活動について体験的に学ぶことができるようする。

保育者（保育教諭を含む）を目指す学生が、幼児の造形表現を見通し、支援・指導を行う際に必要な知識及び技能、表現力について、教材研究を通して身に付けることを目的とする。授業の方法としてICTの活用や協同的学修を行う。

### 授業の到達目標

造形的な保育実践に必要な表現力と知識を身につける

(1) 保育実践に必要な表現力を身につける

保育実践に必要な造形の発想・構想の力・保育実践に必要な造形材料などの特徴を生かして表現する技術力・保育実践に必要な造形表現活動の過程から読み取る力・保育実践に必要な造形表現の方法について伝える力

(2) 保育実践に関する知識についての理解

造形的な表現活動の意義と幼児の発達特徴・身近な造形材料（自然材・人工材等）の特徴・保育実践に必要な造形の用具の基本的・基礎的な扱いと安全性・保育実践に必要な造形活動の環境構

### 授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）

#### 授業内で詳細を提示

準備学修：自ら素材集めをして授業に備えてください。

事後学修：演習した内容についてまとめを記入してください。

その他提出課題（ポートフォリオ・ポップアップカード等）があります。

### 評価方法

学修内容の学びや気づきを活動の記録として授業題材毎のポートフォリオとしてまとめたものを学びの過程として評価（40%）その他、造形指導に関する基本的・基礎的な知識・技能を評価とする（40%）。振り返り等（20%）

教科書 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園 教育・保育要領幼稚園教育要領、	参考図書 3.4.5歳児の造形活動おまかせガイド（明治図書）
---	-----------------------------------

### その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

保育者となつたときのことのことを考え、日頃から手作りを楽しんでください。

連絡手段：tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01 幼児の発達の特徴と表現活動の意義について（描画について）
02 平面演習1（ドリッピング・バチックなど）
03 平面演習2（マーブリング・染紙など）
04 平面演習3（スタンピングなど）
05 平面演習4（紙版画）
06 ポップアップカードの制作1（とび出す仕組みについて）
07 ポップアップカードの制作2・提出
08 活動を振り返って（ICTを使った活動評価とまとめ）
09
10
11
12
13
14
15
16

## 2021年度シラバス

科目名:幼児造形B	担当者:田端 智美	開講学科等 保育学部 国際教養こども学科
		授業形態 演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期 後期
		配当学年 1
受講者制限:幼児造形Aを履修済みであること 幼児造形Aを履修済みであること		単位数 1
		必須・選択 選択

### 授業概要と方法

#### 【担当者の実務経験】小学校非常勤講師

この授業科目では、元小学校非常勤講師（图画工作専科）の経験を踏まえ、幼稚園・保育園・小学校の連携を含めた指導・支援方法について具体的な検討を行う。また発達の過程を含めた支援計画・指導計画の活動について体験的に学ぶことができるようする。

保育者（保育教諭を含む）を目指す学生が、幼児の造形表現と小学校低学年の图画工作等の学習活動を見通し、支援・指導を行う際に必要な知識及び技能、表現力について、教材研究を通して応用的に身に付けることを目的とする。授業の方法としてICTの活用や協同的学修を行う。

### 授業の到達目標

造形的な保育実践に必要な表現力と知識を応用的に身につける。

#### (1) 保育実践に必要な応用的な表現力

保育実践に必要な造形の発想・構想の力を身に付ける・保育実践に必要な造形材料などの特徴を生かして表現する技術力を身に付ける・保育実践に必要な造形表現活動の過程から読み取る力を身に付ける・保育実践に必要な発展的な造形表現の方法について伝える力を身に付ける

#### (2) 保育実践に関する知識

造形的な表現活動の意義と幼児の発達特徴について理解・身近な造形材料（自然材・人工材等）の特徴について理解・保育実践に必要な造

### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

#### 授業内で詳細を提示

準備学修：自ら素材集めをして授業に備えてください。

事後学修：演習した内容についてまとめを記入してください。

その他提出課題（ポートフォリオ等）があります。

### 評価方法

学修内容の学びや気づきを活動の記録として授業題材毎のポートフォリオとしてまとめたものを学びの過程として評価（40%）その他、造形指導に関する基本的・基礎的な知識・技能を評価とする（40%）。振り返り等（20%）

### 教科書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園  
教育・保育要領幼稚園教育要領、

### 参考図書

3.4.5歳児の造形活動おまかせガイド（明治図書）

### その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

保育者となつたときのことのことを考え、日頃から手作りを楽しんでください。

連絡手段：tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01 幼児の発達の特徴と表現活動の意義について（工作について）

02 立体演習1（空き箱を使った工作について）

03 立体演習2（牛乳パックを使った工作について）

04 立体演習3（紙皿・紙コップを使った工作について）

05 立体演習4（造形あそびについて）

06 製作活動を通した模擬保育1（素材を組み合わせた表現について）

07 製作活動を通した模擬保育2（粘土遊びについて）

08 活動を振り返って（ICTを使った活動評価とまとめ）

09

10

11

12

13

14

15

16

## 2021年度シラバス

科目名:保育原理	担当者:原田 明美	開講学科等 保育学部 国際教養こども学科
免許・資格:保育士資格		授業形態 講義
受講者制限:		開講時期 前期
		配当学年 1
		単位数 2
		必須・選択 必須

### 授業概要と方法

【担当者の実務経験】保育所園長

この授業科目では、元乳児院・養護施設での経験や保育所園長の経験を踏まえ、保育とは何かを自分の体験を通して、及び学びを通して深めます。そして保育はどのようにして始まり、どのようにして現在に至っているか、歴史も振り返りながら学びます。また自分自身の保育観・こども観を振り返りながら保育観を深めます。具体的な子どものイメージが出来るようになります。

### 授業の到達目標

- ・保育の意義及び目的について理解する・保育に関する法令及び制度を理解する・子どもの最善の利益を学び、保育の現状と課題を学ぶ中で、保育とは何か、保育とはどうあるべきかを深める。
- ・保育所保育指針等保育の基本について理解する・保育の思想と歴史的変遷・保育の現状と課題について理解する

### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

- ・ボランティア経験や街の中の子どもの様子を観察してください。
- ・自分で考える、考えたことを記録する習慣を身に着けてください。
- ・主体的な参加と積極的な発言や質問を期待します。

### 評価方法

- ・授業参加・グループ討論参加態度 30 % + 小課題レポート 40 % + 最終レポート 30 %

教科書 無し	参考図書 ・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
-----------	---

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

授業などで連絡する

01 保育とは何かを考える・・保育の理念と概念について学ぶ
02 子どもの権利条約と最善の利益と保育について学ぶ
03 保育の歴史・社会的役割と責任について学ぶ
04 児童福祉法における保育の位置づけと関係法令を学ぶ
05 子ども・子育て支援新制度、保育の実施体系、及び昨今保育労働環境や保育無償化について学ぶ
06 保育所保育指針における保育所の役割・保育の基本を学ぶ
07 幼稚園教育要領を学ぶ・幼稚園と保育所の共通点と違いを学ぶ
08 保育の目標と方法・内容・環境を通しての保育を学ぶ
09 保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）と保育課程を学ぶ
10 保育の思想と歴史Ⅰ（ルソー1）を学ぶ（エミール乳幼児期）
11 保育の思想と歴史Ⅱ（ルソー2）を学ぶ（エミール児童期）
12 保育の思想と歴史Ⅲ（野口幽香・徳永悠：二葉幼稚園）を学ぶ
13 保育の思想と歴史Ⅳ（倉橋惣三）を学ぶ
14 保育の計画について学ぶ・海外の保育について学ぶ
15 保育職員の資質向上　・子育て支援・保育での情報機器の利用を学ぶ・確認テスト
16

## 2021年度シラバス

科目名:子ども家庭福祉	担当者:原田 明美	開講学科等 保育学部 国際教養こども学科
免許・資格:保育士資格		授業形態 講義
受講者制限:		開講時期 後期
		配当学年 1
		単位数 2
		必須・選択 必須

### 授業概要と方法

【担当者の実務経験】保育所園長

この授業科目では、元乳児院や養護施設での経験や保育所園長の経験を踏まえ、子どもの成長発達と生活を保障するために、家庭や保護者に対して子育て支援を目的として実施する種々の社会的な施策や援助を学ぶ。子ども家庭福祉の意義や歴史的背景を学ぶ。子ども家庭福祉での児童の権利を学ぶ。子ども家庭福祉の制度や実施体系を学ぶ。子ども家庭福祉の現状と課題を学ぶ。子ども家庭福祉の動向と展望を学ぶ。

### 授業の到達目標

子ども家庭福祉の意義や歴史的背景、子ども家庭福祉での児童の権利、子ども家庭福祉の制度や実施体系、子ども家庭福祉の現状と課題、子ども家庭福祉の動向と展望を理解する。

### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

教科書を読んで予習を行い、疑問点など質問できるようにしておく

### 評価方法

課題レポート（試験）40%・授業参加・集団討論参加態度30%・最終レポート30%

教科書 授業で紹介します	参考図書 保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書
-----------------	--

### その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

日頃から子どもに関するニュースに关心を持ち、新聞や他の報道に接すること。本も読むこと  
オフィスアワー金曜日昼休み・メールアドレスa-harada@ohkagakuen-u.ac.jp

01 子ども家庭福祉の理念と歴史的展開

02 子ども家庭福祉の全体像

03 現代社会と子ども家庭福祉

04 子ども家庭福祉の法律と行財政

05 児童福祉施設と専門職

06 児童相談所の機能と役割

07 少子化と子育て支援サービス

08 母子保健と児童の健全育成

09 多様な保育ニーズへの対応

10 虐待防止、子どもへの体罰禁止、ドメスティック・バイオレンス

11 社会的養護

12 子どもの貧困・ひとり親家庭・障害児への対応

13 非行への対応・保育と教育・療育・保険・医療などの連携とネットワーク

14 子ども・子育て支援制度の仕組み

15 子ども家庭福祉のこれからの課題 確認テスト

16

## 2021年度シラバス

科目名:保育者論	担当者:原田 明美	開講学科等 保育学部 国際教養こども学科
		授業形態 講義
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期 後期
		配当学年 1
受講者制限:		単位数 2
		必須・選択 必須

### 授業概要と方法

#### 【担当者の実務経験】保育所園長

この授業科目では、元乳児院や養護施設での経験や保育所園長の経験を踏まえ、卒業（就職）するまでに、「自分の理想の保育者像」を確かなものにし、その実現に向けて一歩づつ近づく方法を身に付けて、就職できるように学びたい。先人の保育や保育観を学びながら、常に、「自分ならどうするか」をイメージしながら授業が出来るようにしたい。15回の中で、1回はレポートの提出・発表を体験する機会を作ります。

### 授業の到達目標

- ・保育者の役割と倫理について学ぶ
- ・保育士の制度的な位置づけを学ぶ
- ・保育士の専門性について学ぶ
- ・保育者の連携・協働・資質向上・キャリア形成について学ぶ

### 授業外に行なうべき学修活動(準備学修・事後学修)

- ・常に「保育とは」「保育者とは」を意識しながら、実習やボランティア・子どもと接するときに考えてください。
- ・機会あるごとに子どもの様子を観察して記録に取る

### 評価方法

小レポート40%・授業態度30%・最終30%

教科書 無し	参考図書 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・全国保育士会倫理綱領ガイドブック・その他授業の中で紹介します
-----------	---

### その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

授業などで連絡する メールアドレスa-harada@ohkagakuen-u.ac.jp

- 01 保育者の役割と倫理について学ぶ・・保育とは何か・・保育者とはどうあるべきかを考える
- 02 保育者の仕事と役割Ⅰ 幼稚園教育要領・保育所保育指針での保育者の役割
- 03 保育者の仕事と役割Ⅱ 子ども理解と保育者の役割
- 04 保育者の仕事と役割Ⅲ 保護者理解と子育て支援での保育者の役割
- 05 保育士の制度的な位置づけを学ぶ
- 06 保育者の連携・協働について学ぶ
- 07 保育者の資質向上とキャリア形成について学ぶ・保育者としての倫理観を学ぶ
- 08 先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅠ 野口由香・徳永恕
- 09 先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅡ 倉橋惣三
- 10 先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅢ 安部富士夫・畠谷光代
- 11 先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅣ 斎藤公子
- 12 先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅤ 近藤薰樹・高田敏幸
- 13 保育とは何か・・・遊びを楽しくする・遊びを発展させるとはと保育者の役割
- 14 保育とは何か・・・子どもの成長発達と保育者の役割
- 15 海外の保育について学ぶ スウェーデン・ニュージーランド・オーストラリア  
確認テスト
- 16

## 2021年度シラバス

科目名:保育内容指導法（環境）	担当者:原田 明美	開講学科等 保育学部 国際教養こども学科
		授業形態 演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期 後期
		配当学年 1
受講者制限:		単位数 2
		必須・選択 必須

### 授業概要と方法

#### 【担当者の実務経験】保育所園長

この授業科目では、元乳児院や養護施設での経験や保育所園長の経験を踏まえ、現代の子どもを取り巻く環境や、乳幼児と環境との関わりについての専門的事項を学び、幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、保育の構想、指導方法を学びます。環境との関わり、遊びの体験の中で子どもの認識や理解がどのように深まるかを学び、保育者がどのように指導をするのかを学びます

### 授業の到達目標

幼稚園教育要領・保育所保育指針等の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。特に乳幼児の認識についての学びを深め、環境に好奇心や探求心を持って主体的に関わり、それを生活に取り入れて関わるよう、具体的な指導案を作成し、保育構想力を身に付ける。

### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

子どもの遊びに興味を持ち、自分の経験や子どもとの関わりの中で遊びの楽しさを味わってほしい。遊びをもっと楽しくする工夫やアレンジ力を身に付けてほしい。子どもの遊ぶ様子を観察して、どんな遊びをどんなふうに楽しんでいるのか観察してほしい。草花や昆虫、栽培などにも興味を持ってほしい

### 評価方法

レポート30% 授業態度30%、確認テスト40%

教科書 無し	参考図書 幼稚園教育要領解説書・保育所保育指針解説書・幼保連携型認定こども園教育保育要領解説書
その他(学生へのアドバイス、連絡手段) オフィスアワー金曜日昼休み メールアドレスa-harada@ohakagakuenn-u.ac.jp	

01 乳幼児の育つ環境について学ぶ・遊びとは何か・遊びの意義
02 乳幼児の保育・教育の基本と保育内容「環境」のねらい、内容について
03 乳児期の認識の発達について学ぶ
04 幼児期の認識の発達について学ぶ
05 ごっこ遊びと子どもの指導・教材研究
06 草花遊びと子どもの指導・教材研究
07 構成遊びと子どもの指導・教材研究
08 乳幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際（室内活動）
09 乳幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際（室外活動）
10 標識・文字などに関わる保育の実際・教材研究
11 数量などに関わる保育の実際・指導案の作成と模擬授業
12 図形などに関わる保育の実際・情報機器の活用
13 子どもの育つ環境について考察する
14 意欲・主体性・好奇心・探求心と保育の関わり・保育者の関わり
15 幼児期の認識の発達と遊びの関わりのまとめ・確認テスト
16

## 2021年度シラバス

科目名:乳児保育 I	担当者:原田 明美	開講学科等 保育学部 国際教養こども学科
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		授業形態 演習
		開講時期 後期
受講者制限:		配当学年 2
		単位数 2
		必須・選択 選択

### 授業概要と方法

#### 【担当者の実務経験】保育所園長

この授業科目では、元乳児院での経験や保育所園長の経験を踏まえ、乳児保育の意義や役割を具体的に検討し、乳児保育が社会で果たす役割や、0歳から2歳の発達の特徴、保育で保育者が配慮すること、乳児保育における保育者の役割、大切にしたいことなど、加えて乳児期の遊びの種類や方法を学びます。

### 授業の到達目標

人間形成の基礎である乳児期は、その後のどの発達時期と比べてみても一番目覚ましい発達を遂げる時期です。この乳児期の発達段階に合わせた保育ができるように基礎的な知識を理論を保育の事例から学びます。また教材作成等の実技を行い具体的な技能も高めていきます。

### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

授業で提示する参考文献を読むこと。ボランティアなどで乳児に接する機会を多く持つこと

### 評価方法

課題レポート40%・授業参加・グループ討論参加態度30%・最終レポート30%

### 教科書

#### 参考図書

保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書、幼稚園教育要領解説書

### その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

この授業は、演習ですので、乳児保育を実践する力を培うため、グループ討論、教材研究とその指導法も学んでいきます。  
a-harada@ohkagakuenn-u.ac.jp

01 乳児保育が社会で果たす意義と役割

02 乳児保育の理念と歴史

03 乳児保育の基本（0歳児の保育と生活）

04 乳児保育の基本（1歳以上3歳未満の保育）

05 0歳児の発達と遊びI

06 0歳児の発達と遊びII

07 1歳児の発達と遊びI

08 1歳児の発達と遊びII

09 2歳児の発達と遊びI

10 2歳児の発達と遊びII

11 乳児保育の教材研究

12 乳児保育と保護者支援

13 乳児保育と保育者の役割と連携

14 乳児保育における危機管理

15 乳児保育の計画・記録

16 まとめ

## 2021年度シラバス

科目名:英語科教育法 I	担当者:石渡 雅之	開講学科等 学芸学部 英語学科
		授業形態 講義
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状 (英語)		開講時期 前期
		配当学年 2
受講者制限:教職課程履修が学部により認められた者		単位数 2
		必須・選択 選択必須

### 授業概要と方法

#### 【担当者の実務経験】中学校・高等学校教諭

この授業科目では、元中学校・高等学校教諭での経験を踏まえ、英語教育を行う場として小学校、中学校・高等学校における指導・実践方法について具体的な検討を行う。また、英語教育を実施するための学習指導案の作成・活用について体験的に学ぶことができるようとする。【A L】

#### 【概要】

この授業科目では、中学校及び高等学校教諭としての経験を踏まえ、教育現場における英語指導方法について必要な理論の検討を行う。また、中学校、高等学校での英語授業を実施するための指導計画の作成・活用についても、教育現場の最新情報を確認しながら体験的に学ぶことができるようとする。尚、本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」と関連している。

### 授業の到達目標

- a. 学習指導要領を理解し、主として中学校における教育課程編成のあり方を理解することができる。また学習指導要領における中学校での外国語教育の位置づけを理解することができる。
- b. 4技能（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）の指導方法を理解することができる。
- c. 英語教育諸理論、ならびに関連分野の諸理論を理解することができる。
- d. 主として中学校における授業を想定した指導案を作成することができる。

### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

教育は大変時間が必要とされる分野である。しっかりとした理論を書籍や研究論文を通して学び、それをどのように授業実践にいかしていくべきなのか?ということを常に考えることが必要である。また、毎週4時間程度の授業外学修が必要であることに加え、英語教育に関するニュース等は常に意識して、見たり聞いたりすることが望ましい。

### 評価方法

- ①授業中の小テスト 10% ②原書購読課題 30% ③学期末のレポート 50% ④CRP 10%

### 教科書

石田雅近・小泉仁・古家貴雄 (著) 新しい英語科授業の実践  
(金星堂) 笠島準一 (他 代表) NEW HORIZON 1/2/3 (東京書籍)

### 参考図書

文部科学省 小学校／中学校／高等学校学習指導要領

### その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

1年次の教職科目をすべて履修していること、および学習指導案の作り方を理解していることを原則とする。その他、学科教職課程委員会の定める履修規定が適用される 研究室: 7311

- 01 オリエンテーション (授業進行説明)
- 02 中学校教育課程編成のあり方について
- 03 試験-英語教育と語用論中学校教育課程編成のあり方について
- 04 英語教育に求められているもの
- 05 中学校授業実施のための学習指導案作成方法、および授業分析方法
- 06 中学校英語授業の現状 (中間アンケート実施)
- 07 学習指導要領における外国語活動 (小学校) の位置づけについて
- 08 小学校における外国語活動と英語教育
- 09 英語教授法解説
- 10 コミュニケーション能力の育成について
- 11 リスニング指導のあり方 (選択的リスニング・包括的リスニング・相互作用的リスニング)
- 12 スピーキング指導のあり方 (発音指導・ゲームの有用性・インフォメーションギャップをいかした指導法)
- 13 リーディング指導のあり方 (スキーマ理論・音読/默読の有効性)
- 14 ライティング指導のあり方 (フリーライティングアプローチ・パラグラフパタンアプローチ・文法/統語・構成アプローチ)
- 15 授業総括／英語模擬授業について
- 16 なし

## 2021年度シラバス

科目名:英語科教育法 II	担当者:石渡 雅之	開講学科等 学芸学部 英語学科
		授業形態 講義
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期 後期
		配当学年 2
受講者制限:教職課程履修が学部により認められた者。前期の英語科教育法 I、またはそれに相当する授業を履修済みであること。	単位数 2	必須・選択 選択必須

### 授業概要と方法

#### 【担当者の実務経験】中学校・高等学校教諭

この授業科目では、元中学校・高等学校教諭での経験を踏まえ、英語教育を行う場として小学校、中学校・高等学校における指導・実践方法について具体的な検討を行う。また、英語教育を実施するための学習指導案の作成・活用について体験的に学ぶことができるようする。【A L】

#### 【概要】

この授業科目では、中学校及び高等学校教諭としての経験を踏まえ、教育現場における英語指導方法について必要な理論の検討を行う。また、中学校、高等学校での英語授業を実施するための指導計画の作成・活用についても行い、それらに基づく模擬授業を多く実践し、体験的な学びを多く取り入れることとする。尚、本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」と関連している。

### 授業の到達目標

- a. 前期に学んだ英語教育理論を実践に応用することができる。b. 学校文法の正しい知識を、コミュニケーション活動を中心とした活動で学習者に伝えるような授業を考えることができる。c. 教科書をもとに、適切な学習指導案を作成することができる。d. 教師／学習者それぞれの立場で積極的に模擬授業に参加することができる。

### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

教育は、その実践を行う前に大変準備時間が必要とされる分野である。模擬授業指導案は、様々な実践方法をDVDなどを通じてイメージし、時間をかけて作成しなければならない。また、毎週4時間程度の授業外学修が必要であるが、その際に前期に学んだ各種英語教育理論をどのように実践にいかしていくべきなのか?ということを常にイメージしておくことが要求される。

### 評価方法

- ①CRP 10% ②担当授業に対しての学習指導案の作成 20% ③模擬授業において、教師として授業をマネジメントする姿勢 20% ④学期末のレポート 50%

### 教科書

石田雅近・小泉仁・古家貴雄（著）新しい英語科授業の実践（金星堂）笠島準一（他 代表）NEW HORIZON 1/2/3（東京書籍）

### 参考図書

文部科学省 小学校／中学校／高等学校学習指導要領

### その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

前期の英語科教育法 I 受講に際し、適用される要件、並びに英語科教育法 I を履修済みであることを、原則として受講条件とする。研究室：7311

- |    |                                   |
|----|-----------------------------------|
| 01 | オリエンテーション（授業概要説明）                 |
| 02 | 模擬授業1、およびその分析（テーマ：be動詞の指導方法）      |
| 03 | 模擬授業2、およびその分析（テーマ：一般動詞の指導方法）      |
| 04 | 模擬授業3、およびその分析（テーマ：疑問詞の指導方法）       |
| 05 | 模擬授業4、およびその分析（テーマ：助動詞の指導方法）       |
| 06 | 模擬授業5、およびその分析（テーマ：過去形の指導方法）       |
| 07 | 模擬授業6、およびその分析（テーマ：進行形の指導方法）       |
| 08 | 模擬授業7、およびその分析（テーマ：不定詞の指導方法）       |
| 09 | 模擬授業8、およびその分析（テーマ：比較構文の指導方法）      |
| 10 | 模擬授業9、およびその分析（テーマ：There構文の指導方法）   |
| 11 | 模擬授業10、およびその分析（テーマ：受動態の指導方法）      |
| 12 | 模擬授業11、およびその分析（テーマ：現在完了の指導方法）     |
| 13 | 模擬授業12、およびその分析（テーマ：関係代名詞の指導方法）    |
| 14 | 講義-新学習指導要領に基づく望ましい中学校英語授業のあり方について |
| 15 | 授業、模擬授業総括                         |
| 16 | なし                                |

## 2021年度シラバス

科目名:学校教育インターンシップ	担当者:石渡 雅之	開講学科等 学芸学部 英語学科
		授業形態 実習
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期 前期
		配当学年 2
受講者制限:教職課程履修者に限る		単位数 2
		必須・選択 選択

### 授業概要と方法

【担当者の実務経験】中学校・高等学校教諭

この授業科目では、元中学校・高等学校教諭での経験を踏まえ、言語教育を体験的に学ぶ場としてアメリカの小学校や中学校における指導・実践方法について具体的な教員としてのインターンシップ活動を支援していく。また、言語教育を実施するための学習指導案の作成・活用について体験的に学ぶことができるようとする。

#### 【概要】

大学において、インターンシップ先の実習校について理解し、必要な業務内容を理解し、実際に業務に耐えうる知識をつけて、アメリカにおける公立学校で小学生、または中学生を対象とした日本語、英語の授業実践補助を行う。キャンパス内の授業における事前指導、ESCを活用した事前学習、現地での事前指導、教員補助実習、帰国後の事後指導の各内容が本授業に含まれる。尚、本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」と関連している。

### 授業の到達目標

- ①児童又は生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
- ②学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。
- ③学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解することができる。
- ④教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童又は生徒と関わることができる。

### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

(事前) 語学教育が海外においてどのように実施されているか（使用されている教授法や教材研究方法）調べること。

(事後) 語学教育で扱われていた各種教授法、教材作成方法がどのように日本の英語教育現場で活用できるか、研究すること。

(事前・事後) 教師の実際の役割を様々な角度から見つめ、理解すること。

### 評価方法

ESCを活用した事前学習（10%）、オリエンテーションへの参加態度（10%）、インターンシップへの参加態度（30%）、インターンシップ受入れ校の評価（20%）、事後プレゼンテーション（20%）、CRP（10%）

教科書	参考図書
行き先の学校・業務に応じたテキストを授業時までに指示する。	文部科学省：中学校学習指導要領 文部科学省：高等学校学習指導要領

### その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

インターンシップ実施までに、学科が指定した教職課程に関する授業を履修済みであること。履修希望者は語学教育実践に必要な教授法や教材作成方法などをしっかりと身につけることが望ましい。実習中は、常に担当教員と連絡がとれるようにしておく（緊急時の携帯電話や通常コミュニケーションとしてムードルサイトの利用など予定である。 研究室 7311

01	1月下旬～2月初旬：キャンパスにおけるオリエンテーション（3日間実施予定） 2月初旬～3月中旬：アメリカ・ポートランドの公立小学校におけるインターンシップ（14日間実施予定） ※本授業は講義・演習・実習が組み合わさっている授業である。講義9時間、演習7時間、実習6.5時間の合計22.5時間をもって2単位を履修することが可能になるプログラムである。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

## 2021年度シラバス

科目名:英語科教育法 III	担当者:柳田 紗	開講学科等 学芸学部 英語学科
		授業形態 講義
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期 前期
		配当学年 3
受講者制限:教職課程履修が学部により認められた者、及び原則として英語科教育法IとIIを履修していること	単位数 2	必須・選択 選択必須

### 授業概要と方法

#### 【担当者の実務経験】高等学校教諭

この授業科目では、元高等学校教諭としての経験を踏まえ、高等学校における英語の指導方法について具体例を示し、理論と実践を繋げながら学ぶ。また、高等学校での英語教育を実施するための指導案作成・教材作成・評価方法について体験的に学ぶことができるようとする。【AL】

本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力」をつけ、それを将来教育分野において生かすことが意識されている。2年次に学んだ英語科教育法を更に発展させ、主に高等学校における教育課程編成のあり方を学ぶ。続いて英語科各科目の位置付け、目標などについて学び、英語授業を適切に行うための諸理論を学んでいく。使用テキストを概観しながら、学習指導要領と高校教科書を同時に分析していく。そして教科や科目の目標について講義を行う。必要に応じてディスカッションや発表を取り入れる。

### 授業の到達目標

A 高等学校における教育課程編成のあり方を理解することができる。また、教育課程全体の中における英語科各科目教育の位置づけ・目標について理解することができる。B 高等学校における英語授業の具体的な指導方法、および「授業分析方法と指導案作成方法」等の英語教育諸理論を理解することができる。C 高等学校外国語科の学習指導案を作成することができる。

### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

できるだけ多くの英語教育関連図書を読み、時間を作り、ワークショップや研究会に出席する事を強く薦める。また、受講生自身の英語力をさらに向上させるために、継続して英語を勉強し続けることが望ましい。授業外学修は最低4時間とする。

### 評価方法

- ①授業内パフォーマンス課題 30%
- ②英語教育関連図書購読課題 40%
- ③中間・期末テスト 30%

### 教科書

基礎から学ぶ英語科教育法（岡田圭子 他著、松柏社）

### 参考図書

文部科学省 中学校／高等学校学習指導要領。その他授業時に指示する。

### その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

オフィスアワーを含め、必要な連絡方法については授業時に指示する。

01 コース紹介、シラバス説明、英語教育の目的とは

02 英語教師論（英語教師として必要な知識・技術）

03 学習者論（学習者要因・学習ストラテジー）

04 言語習得と言語教育

05 教授法

06 学習指導要領・教科書分析（小・中・高等学校の連携）

07 学習指導要領・教科書分析（高等学校）

08 4技能と音声・語彙・文法指導

09 リスニング指導

10 スピーキング指導

11 リーディング指導

12 ライティング指導

13 ティーム・ティーチング・異文化理解教育

14 評価とテスト

15 教材研究・指導案

16 なし

## 2021年度シラバス

科目名:英語科教育法 IV	担当者:柳田 紗	開講学科等 学芸学部 英語学科
		授業形態 講義
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期 後期
		配当学年 3
受講者制限:教職課程履修が学部により認められた者、及び原則として英語科教育法I、II、IIIを履修していること	単位数 2	必須・選択 選択必須

### 授業概要と方法

#### 【担当者の実務経験】高等学校教諭

この授業科目では、元高等学校教諭としての経験を踏まえ、高等学校における英語の指導方法について具体例を示し、理論と実践を繋げながら学ぶ。また、高等学校での英語教育を実施するための指導案作成・教材作成・評価方法について、英語科教育法IIIで学んだことを模擬授業で実践して身に付けることができるようとする。

本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力」をつけ、それらを将来教育分野において生かすことが意識されている。英語科教育法IVでは、教育実習で実際に英語授業を行うために必要な訓練を行う。前期の同授業Ⅲに続き、より実践に近い形を想定してこの授業を位置付ける。前期に学んだ英語教育諸理論を授業実践の中でどのように生かすかということを考える機会にすることが、本授業の最終的な目標である。

### 授業の到達目標

A 前期に学んだ英語教育理論を実践に応用することができる。B 学校文法の正しい知識を、コミュニケーション活動を中心とした活動で学習者に伝えるような高校の授業を考えることができる。C 高校の教科書をもとに、適切な学習指導案を作成することができる。D 教師／学習者それぞれの立場で積極的に模擬授業に参加することができる。

### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

できるだけ多くの英語教育関連図書を読み、時間を作り、ワークショップや研究会に出席する事を強く薦める。また、受講生自身の英語力をさらに向上させるために、継続して勉強し続けることが望ましい。授業外学修は最低4時間とする。

### 評価方法

教科書分析課題（10%）、模擬授業（50%）、指導案・リフレクション（20%）、図書課題（20%）

教科書 基礎から学ぶ英語科教育法（岡田圭子 他著、松柏社）	参考図書 文部科学省 中学校／高等学校学習指導要領。その他、授業時に指示する。
----------------------------------	--

### その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

オフィスアワーを含め、必要な連絡方法については授業時に指示する。

01 オリエンテーション（授業進行説明）、発音・音読の指導

02 コミュニケーション活動のデザインと実施（1）

03 コミュニケーション活動のデザインと実施（2）

04 評価とテスト

05 標準的授業構成と授業のモデル

06 指導案検討と模擬授業（1）5文型

07 指導案検討と模擬授業（2）時制

08 指導案検討と模擬授業（3）助動詞

09 指導案検討と模擬授業（4）受動態

10 指導案検討と模擬授業（5）不定詞

11 指導案検討と模擬授業（6）動名詞

12 指導案検討と模擬授業（7）分詞

13 指導案検討と模擬授業（8）関係詞

14 指導案検討と模擬授業（9）比較

15 指導案検討と模擬授業（10）仮定法

16 なし

## 2021年度シラバス

科目名:観光学概論	担当者:笹生 友広	開講学科等 学芸学部 英語学科
免許・資格:		授業形態 講義
受講者制限:		開講時期 前期
		配当学年 2
		単位数 2
		必須・選択 選択

### 授業概要と方法

#### 【担当者の実務経験】旅行会社勤務

この授業科目では、元旅行会社での長年の勤務経験を踏まえて、我が国の観光の現状を具体的な事例を参照しながら検討を行う。近年わが国の観光を取り巻く環境は大きく変化した。観光の基本的知識を学び、今後の方向性を考える場とする。

本授業においては学芸学部のディプロマポリシーにある現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力を身につけることが望まれる。少子高齢社会の中、我が国の重要な成長戦略の柱の一つになった「観光」について、観光資源・観光産業・観光政策の観点から、その歴史的背景の基礎を学び、今後の観光の在り方について考える。講義が中心であるが、画像・映像などを多用することにより理解しやすい内容とし、グループ討議も取り入れる。授業ごとにリフレクションを提出し理解度を把握する。

### 授業の到達目標

①我が国の観光の歴史や観光資源、観光産業などについて基本的な知識を習得する。②我が国の観光政策の現状を理解し、それぞれの課題に対して自分なりの考えをまとめる。

### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

新聞、本、TV等から情報を入手し、社会情勢に対して強い関心を持つ。予習復習併せて毎週4時間程度の学習が望まる。

### 評価方法

授業への参加態度（10%）、定期試験（70%）、その他レポート（20%）を総合して評価する。

教科書 特になし、プリントを配布。	参考図書 観光関連専門雑誌（㈱トラベルジャーナル発行）『トラベルジャーナル』など
----------------------	---

### その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

連絡先 sasao@ohkagakuen-u.ac.jp

研究室 7301号室

01 観光の定義と概念（観光のもたらす様々な効果）
02 観光の歴史（中世～近世～明治～大正時代の観光）
03 観光の歴史（昭和～平成時代の観光）
04 観光の歴史（現代の観光）
05 世界の観光産業
06 我が国における観光の現状と課題（国内旅行）
07 我が国における観光の現状と課題（海外旅行）
08 我が国における観光の現状と課題（訪日旅行）
09 我が国における観光の現状と課題（地域創生、観光まちづくり） 我が国における観光の現状と課題（地域創生、観光まちづくり）
10 観光資源 ①
11 観光資源 ②
12 観光政策と観光行政
13 観光関連産業（運輸機関）
14 観光関連産業（宿泊機関）
15 観光関連産業（旅行業）
16 定期試験

## 2021年度シラバス

科目名:観光政策論	担当者:笹生 友広	開講学科等 学芸学部 英語学科
免許・資格:		授業形態 講義
受講者制限:		開講時期 後期
		配当学年 3
		単位数 2
		必須・選択 選択

### 授業概要と方法

#### 【担当者の実務経験】旅行会社勤務

この授業科目では、元旅行会社での長年の勤務経験を踏まえて、我が国の行政による観光政策の変遷及び社会的効果等について、具体的事例を参照しながら検討を行う。

本授業においては学芸学部のディプロマポリシーである現代社会において必要とされる情報リテラシーを習得し国際社会に貢献できる能力を身につけることが望まれる。近年の観光政策における大きな課題である「訪日観光（インバウンド）」「観光まちづくり」および「日本人の海外旅行」の基本施策を学び、その社会的背景や政策内容を検討し、今後の方向性を模索する。本授業ではそれぞれのテーマ毎にレポートにまとめる。（3回）

### 授業の到達目標

- ①訪日観光（インバウンド）の現状を把握し、課題を抽出し、自分なりの解決策を見いだす。
- ②観光まちづくりの現状を把握し、課題を抽出する。自分の出身地について具体的に調査し課題と解決策をまとめる。
- ③日本人海外旅行の現状を把握し、課題を抽出する。

### 授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）

観光専門雑誌（㈱トラベルジャーナル発行、发行人 森谷博）『週間トラベルジャーナル』（図書館）などを読み基礎知識を身に付ける。事前、事後学習として週に4時間程度の学修を目指とする。

### 評価方法

授業への参加態度（30%）、各テーマ毎レポート内容（20×3=60%）外部講師レポート内容（10%）

教科書 特になし、プリントを配布する	参考図書 観光関連専門雑誌（㈱トラベルジャーナル発行）『トラベルジャーナル』など
その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 連絡先 neo@ohkagakuen-u.ac.jp 研究室 7307教室	

01	9/27 授業オリエンテーション、現在の我が国の観光の状況と社会的背景
02	10/4 これまでの観光政策（訪日旅行）
03	10/11 訪日旅行の現状と課題 ①
04	10/18 訪日旅行の現状と課題 ②
05	10/25 訪日旅行の現状と課題 ③
06	11/1 グループディスカッション及びレポート提出（訪日旅行）
07	11/8 これまでの観光政策（地方創生）
08	11/22 観光まちづくりの現状と課題 参考事例①
09	11/29 観光まちづくりの現状と課題 参考事例②
10	12/6 観光まちづくりの現状と課題 参考事例③
11	12/13 愛知県の観光政策について（外部講師）レポート提出
12	12/20 グループディスカッション及びレポート提出（観光まちづくり）
13	12/27 日本人海外旅行の現状と課題 ①（これまでの歴史）
14	1/22 日本人海外旅行の現状と課題 ②（今後において望まれること）
15	1/29 グループディスカッション及びレポート提出（日本人の海外旅行）
16	なし

## 2021年度シラバス

科目名:観光マーケティング	担当者:笛生 友広	開講学科等 学芸学部 英語学科
免許・資格:		授業形態 講義
受講者制限:		開講時期 後期
		配当学年 2
		単位数 2
		必須・選択 選択

### 授業概要と方法

#### 【担当者の実務経験】旅行会社勤務

この授業科目では、元旅行会社での長年の勤務経験を踏まえて、マーケティングの観点から観光産業における具体的な事例を参照しながら学習する。

本授業においては学芸学部のディプロマポリシーにある現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力を身につけることが望まれる。現代企業において最も重要な活動の一つであるマーケティングの基本を学びながら、観光産業におけるマーケティングを具体的に学習し、その内容を発表する。授業ごとにリフレクションを提出し理解度を把握する。

### 授業の到達目標

- ①一般的なマーケティングの基礎知識を習得する。
- ②幅広い裾野を持つ観光産業の具体的な事例を参考に現状を分析する力を養う。
- ③各分野の課題などを学修することにより自分なりの意見をまとめる力を養う。

### 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

新聞、本、TV等から情報を入手し、社会情勢に対して強い関心を持つ。予習復習を併せて毎週4時間程度の学習が望まれる。

### 評価方法

授業への参加態度（10%）、定期試験（70%）、レポート（20%）を総合して評価する。

教科書 特になし、プリントを配布	参考図書 観光関連専門雑誌（株）トラベルジャーナル発行『トラベルジャーナル』など
---------------------	---

### その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

連絡先 neo@ohkagakuen-u.ac.jp

研究室 7307号室

01	9/28 一般的マーケティングの基本
02	10/5 観光産業のマーケティング・ミックス（4P）
03	10/12 人の購買行動（ニーズ・ウォンツ・需要の違い）
04	10/19 顧客は誰？（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、ドメイン）
05	10/26 購買意思決定プロセス
06	11/2 旅行商品の流通
07	11/16 競争戦略（価格戦略）①
08	11/23 競争戦略（価格戦略）②
09	11/30 マーケティングの環境分析（SWOT分析）①
10	12/7 マーケティングの環境分析（SWOT分析）発表 ②
11	12/14 商品のライフサイクル
12	12/21 プロモーション（販売促進）
13	12/28 競争戦略（ブランド戦略）
14	1/18 顧客管理
15	1/25 マーケティング・リサーチ
16	定期試験